

「オフ」と「オン」の調和による学生支援

—高機能発達障害傾向を持つ学生への支援システムを中核として—

2009年2月3日(火)

富山大学 学生支援センター

 トータルコミュニケーション支援室
Total Communication Support Initiative

特命准教授 吉永崇史

「オフ」と「オン」の調和による学生支援の目的

「社会的コミュニケーションの困難さ」に焦点を当てた支援

- 友人関係を求めず、サークル活動やアルバイトからも退却し、なるべくなら1人で楽しむことができる活動を好む。
- ゼミや授業のディスカッションで批判されると気分が落ち込み、気持ちを立て直すのに時間がかかる。
- 実習や実験の場で周囲との協調性に欠く。
- 教員との適度の距離を保つことができず、卒論の取組みがままならない。
- 就職活動をどのようにすればよいか見当がつかない。自分の長所がないように見え、どのような仕事ができるのか想像がつかない。
- 就職活動における面接で黙りこんだり、意欲をうまく伝えたりすることができない。

→あらゆる局面で「社会的コミュニケーションの困難さ」を抱える発達障害傾向にある学生にも対応できる、ユニバーサル・デザインを志向した学生支援システムを確立する。

富山大学に在籍する障害学生(把握人数) (平成21年1月現在)

	把握している学生数	支援を受けている学生数
視覚障害	1	1
聴覚障害	3	1
肢体不自由	1	0
病弱(内部疾患等)	1	0
発達障害(HFASD) ()は診断を受けている学生数	14(3)	11(2)
発達障害(ADHD) ()は診断を受けている学生数	5(0)	5(0)
発達障害(HFASD・ADHD複合) ()は診断を受けている学生数	4(1) *ADHDの診断	4(1)
発達障害(LD)	0	0
合計	30	22

HFASD:高機能自閉症スペクトラム
ADHD:注意欠陥・多動性障害
LD:学習障害

未診断・未告知(グレーゾーン)の学生にも
対応できるような支援システムを構築する
ことが必要

3

「オフ」と「オン」が調和する学生支援システムの構築



「オフ」と「オン」の調和による学生支援

- 対面(オフライン)でのサポートに加えて、ネット(オンライン)上でのサポート(富山大学PSNS:Psycho-Social Networking Service)を提供します。
- キャンパスライフでのより良いコミュニケーションの場を提供し、複数のアクセスチャンネルを保証します。
- 発達障害学生の特性を尊重したサポートを行います。



コミュニケーションマークのデザインコンセプト

個と個がコミュニケーションを図ることで生まれる連携やネットワークの拡大、大きな成長をイメージしたマークです。
また、一人ひとりに対して「オフ」と「オン」の調和のとれた支援を行うことが全体としてのより良い循環を形成していくという、ミクロとマクロのコスモス(個人の世界と全体の世界)の広がり表現しています。

4

トータルコミュニケーション支援室のミッション

すべての学生の「社会的コミュニケーションの問題や困難さ」に焦点を当てた支援を「包括的(トータル)」に行います。



- 学生本人からの相談だけでなく、教職員や保護者からの要請も支援の出発点とします。
- 支援に先立ち、人間関係・学習・修学・就職活動上の「問題」や「困難さ」に向き合います。
- サポートチームを個別に形成し、学生本人の同意のもとに支援に必要な情報を共有して、統一感のある支援を行います。
- 「問題」や「困難さ」を整理して、解決や解消のための道筋や、実行に移すための方策を立てます。また、その実行そのものをサポートします。
- 学生を支援している教職員や保護者もサポートの対象とします。

コミュニケーションマークのデザインコンセプト

グリーンは「安らぎ」、ブルーは「清らかさ」、イエローは「明るさ」を表し、学生、教職員、支援室が補完しながら緊密に関わりあうイメージを描いています。メビウスの輪をモチーフに、「オフ」と「オン」の両面にわたって心身ともに安らかで、清らかな、明るい学生生活を送る心(ハート)のつながりを永続的にもたらし、トータルコミュニケーション支援室の役割をやさしい色調で表現したマークです。 5

トータル・コミュニケーション・サポート のための方法

⑧ 「オフ」と「オン」が調和する学生支援システム(場)の構築

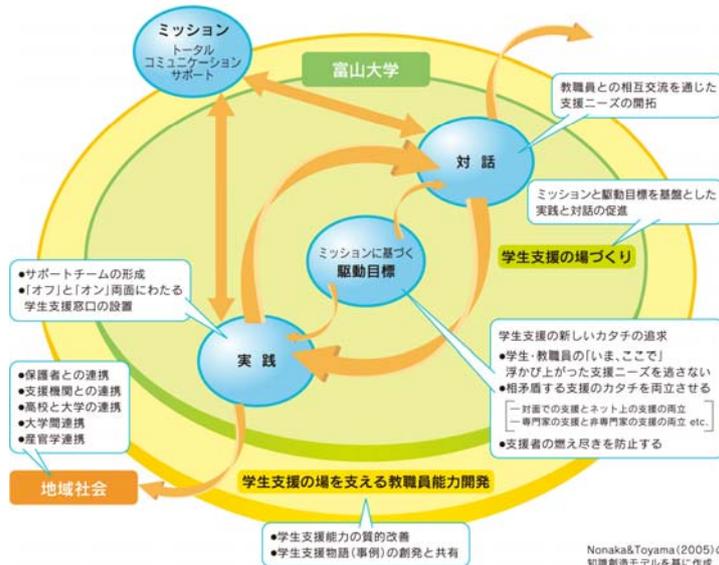
- ⑧ 対面式(オフライン)でのサポートに加えて、ICT技術を用いたWeb上(オンライン)でのサポート(富山大学PSNS: Psycho-Social Networking Service)を展開し、**相談窓口の多チャンネル化**を志向する。
- ⑧ 1対1のサポートを補完する「多対多のサポート」(支援者、被支援者が複数)の形態を積極的に活用する。

⑧ コミュニケーション上の問題に対応する総合窓口の構築

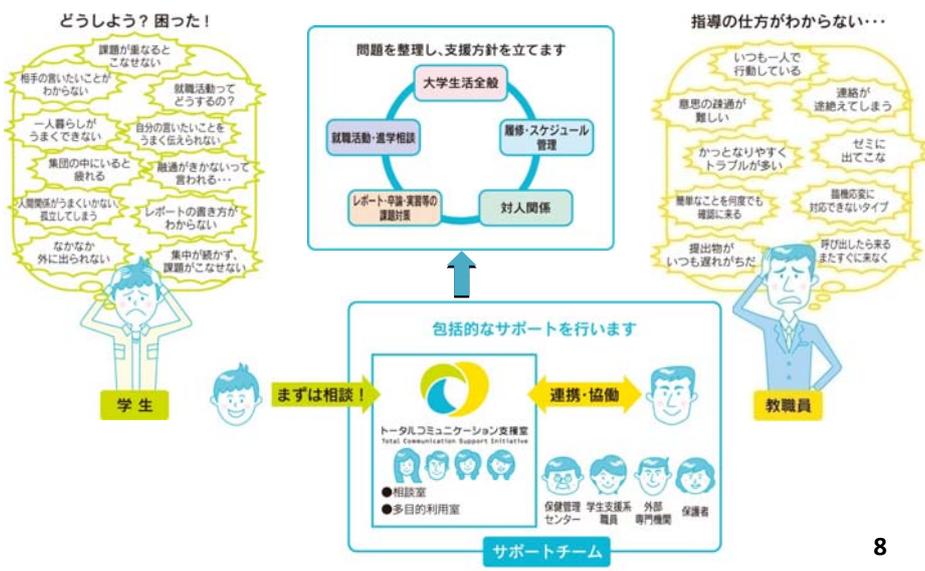
<特別支援教育学×臨床心理学×医療学×経営学>

- ⑧ トータルコミュニケーション支援室を、学生支援センター(全学組織)の下部組織として設置。保健管理センターと密接に連携。
- ⑧ 教員(専門:経営学)と事務補佐員2人を専任として支援室に配置し、「**知識経営(Management by Knowledge)**」の実践を行う。
- ⑧ 専門家(医師、臨床心理士、特別支援教育士スーパーバイザー、特別支援教育研究者等)が当室の活動を支える。

トータルコミュニケーション支援室の活動モデル 知識経営(ナレッジ・マネジメント)の実践

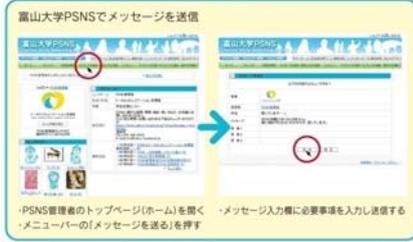


トータルコミュニケーション支援のイメージ



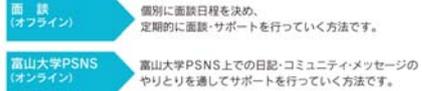
トータルコミュニケーション支援の流れ

1 困ったことがあれば、まずは支援室に連絡してみよう！



2 どんなことで困っているか、支援室の相談員・コーディネーターが話を聞きます。

3 今後の相談・サポートの方法を決めていきます。相談・サポートの方法には次の2つがあります。



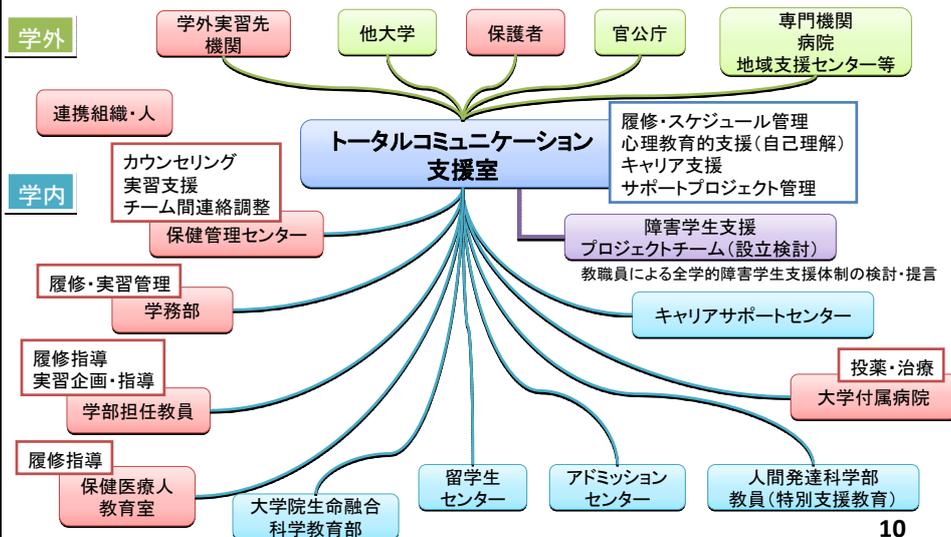
4 トータルコミュニケーション支援室でのサポート開始！

- 学生が抱えるそれぞれの困りごとに合わせたサポートを行います **手づくり支援**
- 自己理解を深めるカウンセリングを行います **心理教育的支援**
- 自分自身の特性を生かす方法を一緒に考えます **コーチング**
- 周囲の人たちの悩みや不安に向き合います **支援者へのサポート**
- 自分の良さを生かした就職・進学のサポートを行います **キャリア支援**

トータルコミュニケーション支援の特長(1)

学内外組織との連携によるサポートチーム形成

発達障害学生(理系)Bさん(ADHD診断あり、高機能ASD疑い)のサポート事例



トータルコミュニケーション支援の特長(2) SNS(ICT技術)の活用による「オフ」と「オン」の相乗効果

The screenshot shows the 'Toyama University PSNS' website. The main content area displays a community page for 'Study Support Team' (修学支援サポートチーム). The page includes a header with navigation links, a search bar, and a community profile section. The profile section contains the following information:

コミュニティ名	修学支援サポートチーム
開設日	2008年08月06日
管理者	よっしー
カテゴリ	修学・生活支援
メンバー数	3人
参加条件と公開範囲	管理者の承認が必要(非公開)
コミュニティ説明文	トータルコミュニケーション支援室でサポートしている学生さん()の修学支援のために開設された、サポートチームメンバー限定のコミュニティです。メンバー以外の方で、当コミュニティでどのようなサポートが提供されているかに関心をお持ちの方は、下記の連絡先までお問い合わせください。吉永(よしなが):tyoshina@ctg.u-toyama.ac.jp
コミュニティ掲示板	<ul style="list-style-type: none"> 11月06日... 09月09日...
コミュニティ詳細込みを標準メールで	<input type="radio"/> 受け取る <input checked="" type="radio"/> 受け取らない

Additional features visible include a 'コミュニティメンバー' section with user avatars and names like 'よっしー (62)' and 'ゆきみさん (2)', and a 'コミュニティ' section with options like 'もっと読む', 'ブロックを作成', 'イベントを作成', and 'コミュニティ設定変更'.

11

高機能自閉症スペクトラム(HFASD)
学生へのサポートから見えてきたこと

12

支援に先立ち本人が抱えている状況

- 過去の「実習」での失敗：
他の実習生との関係、指導者との関係
不器用さ、体調不良（疲労感）
- 外傷体験があり不安感や恐怖心が強い
同じような場面になるとタイムスリップ
- 対処法がわからずパニックになる
過呼吸、自傷行為、立ちすくむ、泣く
相手を攻撃する、実習を放棄する

13

実習（実験・臨床）での困難さ

- 指導者の口頭での指示・説明だけではうまく理解できない。
- 実習の目的と、それを達成するためにどのような手順で行うかを見通すことができない。
- 指導されたことを素直に聞くことができず、持論を主張してしまう。
- 想定外のことが起きたときに、臨機応変に対処できず、パニックになる。
- 少人数のグループで、適度に言葉をはさみつつ協力しながら作業することが苦手である。

14

発達障害傾向にある学生支援の方向性

1. 困難さに焦点を当てた支援

直面する課題(困難な状況)



自分の願いを話す
対処方法を一緒に考える
成功体験を積み上げる

2. 心理教育的サポート

振り返り
自己表現・自己理解
自己決定
自己権利擁護スキル(Self-advocacy)
対人関係スキル



15

本人参加のサポート計画立案・実行・振り返り

—心理教育的サポートの手順—

支援を受ける学生をサポートチームの中心に据えること
によって、サポートそのものが自己理解を促進する

- | | | | |
|---|--------------------------------|---|--------------|
| ⑧ | 自分の困難さを分析する | → | 自己分析 |
| ⑧ | 対処法を支援者と一緒に考える | → | 計画を立てる |
| ⑧ | 実際に試してみる | → | 実行する |
| ⑧ | 支援者と一緒に振り返りを行う | → | 自己分析 |
| ⑧ | 特性にあった対処方法を見つける | → | 自己理解 |
| ⑧ | 成功体験を積み上げる | → | 自尊感情を高める |
| ⑧ | 自分の特性を他者に説明できる | → | 自己表現 |
| ⑧ | 適切な自己主張を行い、
不利にならない環境を作っていく | → | 自己権利擁護スキルの獲得 |

16

発達障害学生Bさん(理系)支援例

(ADHD診断有・高機能ASD疑い)

—指導教員、保健管理センターとの連携—

⑧ 困難さに焦点を当てた支援

- ⑧ 課題:体調や気分の波があって授業や実習に出られない。
- ⑧ 願い:自己コントロールしながら授業や実習に臨みたい。
- ⑧ 方法:スケジュールを調整しながら気分の揺れを最小限に

⑧ 心理教育的サポート

- ⑧ 振り返り:体調や気分の不調がどのようなときに起きるか振り返り、状況を客観的に把握する。
- ⑧ 自己表現:自分の体調と気持ちのずれを言葉に表す。
- ⑧ 自己決定:スケジュールを調整しながら取舍選択する。
- ⑧ 自己権利擁護スキル(Self-advocacy):自分の体調や気分の不調を適切な表現で伝える。

17

支援者の心構え(就職活動支援を例に)

⑧ 困難さに焦点を当てた支援:支援者も考える!

- ⑧ 本人のペースに合わせる:大抵は非常にゆっくり
- ⑧ 一緒に集中的に作業に向き合う:2~3時間/1面談あたり
→履歴書をどのように書くか一緒に考える。履歴書添削は最後の作業工程
自己PRと志望動機の出出は本人にとって非常に難しい作業
→目の前で会社やハローワークに電話してもらい、就活を進めていく。
- ⑧ 面接のシミュレーションと面接後の振り返りをする。

⑧ 心理教育的サポート:本人の特性への肯定的関心

- ⑧ 本人の自己否定感をまず受容する。
- ⑧ 本人の持論をなるべく感情的に受け止めず、論理的に理解し(楽しみ)、その上で一般常識との「ずれ」を論理的に説明する。
- ⑧ 本人が心地よく感じる内的世界を尊重し、それが維持できる方法の1つの選択肢として就職を考えてもらう。
→「仕事で自己実現を図るのか?それとも趣味に生きるために必要なお金を得るのか?は、人それぞれである。」等の語りの場を作る。

18

合理的配慮の最初の一步

- ⌘ 否定的な言葉を言わない→〇〇してはいけません×
→◎◎しましょう〇
- ⌘ 正確な言語表現を心がける→× 比喩・仄めかし
- ⌘ 視覚情報(配付資料・授業の流れの説明)を十分に!
- ⌘ 居場所を作る: 感覚過敏や情報過多で疲労した心身を休める→×「やる気ないの?」
- ⌘ 周囲の出来事や人との関係についてわからなくて混乱することのないように、その場の状況を通訳して、他の学生と同じ情報が正しく届くようにする。

19

トータルコミュニケーション支援推進上の課題

- ⌘ 合理的な配慮とは?
 - ⌘ 本人の努力に見合った成果が出るための環境づくりを目的とした配慮
 - ⌘ 過剰な配慮が(配慮要請側の意図を超えて)行われてしまうことの危惧
 - ⌘ 本人の「支援慣れ」を招き、自助努力を阻害することのないように行う
- ⌘ サポートチームにおける情報共有の範囲とは?
 - ⌘ 目的とプロセスの共有を兼ねた「学生カルテ」が必要ではないか?
 - ⌘ 支援の目的に照らし合わせた適切な情報共有の在り方とは?
- ⌘ 学生支援の「場」のマネジメント(対話と実践)をどう行うか?
 - ⌘ 大目標(ポリシー)とそれを達成するための小目標(日々のタスクに直結)の整合性を常に検証し、チーム間で確認し合う。
 - ⌘ 「専門家」と「非専門家」の関係、専門家間関係の在り方の問い直し
 - ⌘ 全学的な体制づくりの必要性。執行部と現場の教職員の両方の理解が必要
 - ⌘ ピア・サポーター(学生)の育成と活用の仕方は?
- ⌘ 「入口(高校)」と「出口(地域社会・職場)」との適切な連携とは?
- ⌘ 自己理解・自己表現力を育成する心理教育的サポートとは?
- ⌘ 「トータル・コミュニケーション・サポート」の理論的枠組みとは?
 - ⌘ 本人の語りに沿いつつ、表現を促進する「問いかけ」方法の検討
 - ⌘ 当事者だけではなく、支援者のサポート経験や語りの構造化も必要

20